

その1 ある晴れた日のこと

その1 ある晴れた日のこと

あーるー晴れた、ひーるーさがりー（本当は午前10時）



こんにちは、桃色ウサビです。

けして市場に売られに行く途中ではありません。

ことの起こりは前回の産業まつりのりんご品評会のときのこと



産業まつりにて、ウサビの上司の高橋さんとツーショット

高橋さん「そういえばウサビ、せっかくだからりんご品評会の受賞者インタビューしたら？」

ウサビ「いいですね、ぜひやりましょう！」

完全にその場の思いつきで行動するふたり。



受賞者のみなさん

ウサヒ「ご年配の方には、ウサヒの企画自体が悪ふざけしすぎていて、理解されにくい
ですかね？」

高橋さん「だったら一番若い方を狙いましょう」

(産業振興課では、ウサヒの企画が「結構ムチャな企画である」という共通認識があります。)

というわけで今回ターゲットになったのが

写真一番右、品評会で金賞三席(第5位)を受賞した鈴木さんです。

壇上から降りてきた鈴木さんに近づき

高橋さん「おめでとうございます鈴木さん！おめでたついでにお願いが…」

ウサヒ「取材させてください」

鈴木さん「…???ウサギ」

この時りんごの収穫で忙しかった鈴木さんにその場でのインタビューは迷惑になると考え、ウサヒは後日、鈴木さんの収穫作業を手伝うとうい名目で、畑にお邪魔することにしたのです。



そして今にいたる…

ここは朝日町和合地区。

無袋ふじ発祥の地であるこの場所に鈴木さんの畑があります。

無袋ふじとは…それまでりんごの実には、害虫や病気対策のために薬品が塗布された袋をかぶせていましたが、この和合で無袋でのふじりんごの栽培に成功したのだそうです。

ウサビ 「ドナドナごっこも飽きたし、そろそろいくか……」



軽快に飛び出し畑へと向かいます



ウサビ 「鈴木さーん、こんにちはー」

鈴木さん 「…来たか…」



朝日町りんご品評会金賞三席受賞の鈴木さんご夫妻です。

ウサビ 「今日はよろしくお願いします」

鈴木さん 「はじめに声かけられた時は何かと思ったけど、今日は楽しんでいってくれ。」



ということで、まずはりんご畑を案内していただくことに…

鈴木さん 「着ぐるみ汚れないの？」

ウサヒ 「今日のためにピンクの長靴を新しく買いました！手も軍手です」

ウサヒの手足は状況に応じて付け替え可能だよ(スノーパーク編参照)



ウサヒ 「今(12月初旬)は収穫期の後半なんですか？」

鈴木さん 「そうですね。本当はもう少し早く終わるんだけど、今年は予想外の雪が降ってね。今収穫しているものが最終だよ」

ウサヒ 「収穫はご夫婦だけでやっているんですか？」

鈴木さん 「とんでもない、鈴木一族総出でやっていますよ。」

ウサヒ 「鈴木家オールスターなんですね。あそこにいるおじいちゃんは？」

鈴木さん 「おやじです。この畑はおやじから継いだんですよ。」



鈴木さんのお父さん、先代の農園主。この畑は先代の努力の結晶でもあるのです

ウサビ 「今年の出来はいかがですか？」

先代 「いい感じだな。でも、出来すぎてしまったから値段は落ちそうだ」

果物は豊作だと1個あたりの価格が下がってしまいます

ウサビ 「気候的によかったんですかね？」

先代 「そうだな、春は最初は寒い日がつづいたんだが夏に雨が多くてよく成長してくれたのがよかったな。」



鈴木さん 「こんな感じにいい実が育ったよ」

ウサビ 「このりんごって、どのあたりがすごいんですか？」

鈴木さん 「じゃあ、この2つを見てくれ」



ウサビ 「ぜんぜん違う・・・色も違うけど、重さがぜんぜん違うよ」

鈴木さん 「そうでしょ。同じ樹からとったりんごでもこんなに差が出るんだ。われわれ農家の仕事は、この赤くて重いりんごをいかに多く作るかが勝負なんだ！！」

ウサビ 「ぜひ、そのおいしいりんごを作る秘訣を教えてください！」

というわけで、今回は鈴木さんにおいしいりんごの育て方をインタビューします。

つづく